暴落したけど大丈夫？　新しいNISAの活用方法

2024年8月5日（月）に日経平均株価が急落し、前週末比4,451円28銭安（-12.4%）の31,458円42銭で取引を終えました。下落幅は1987年10月20日の3,836円48銭（米国株の急落が世界に飛び火したブラックマンデー翌日）を超え、過去最大となりました。しかし、翌6日は急反発し、前日比3,217円04銭高（+10.2%）の34,675円46銭で終え、過去最大の上昇額となりました。

2024年の新しいNISAを機に投資を始めた方は驚いたかもしれませんが、株式市場では時折見られる現象です。2020年3月のコロナショックの時には1か月で5,000円（25%）程度下落したこともあります。
一時的に下がることがありますが、長期的には上昇して行く傾向があります。

■日経平均株価のチャート

短期的な視点では大幅に下落しているが（左図）、長期的な視点では緩やかに上昇している（右図）。

※ただし、過去の結果であり、必ずしも将来を約束するものではありません。

Yahoo!ファイナンスより

■新しいNISAの活用法

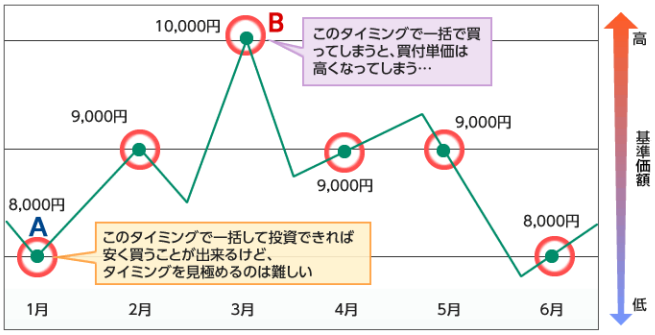
NISA（少額投資非課税制度）は投資信託や株式などの金融商品から得られる利益を非課税にする制度です。
資産運用の王道は「長期・つみたて・分散」です。

■長期間
→少なくとも10年以上の期間がおススメです。

■決まった間隔で同じ金額を投資する（つみたて）
→ドルコスト平均法の考え方を活用する（毎月一定額を買う）。右図では、1か月1万円ずつ購入した場合、6か月後は6万円で68,333口となり、10,000口当たりの買付単価は約8,780円となる。Bのような高値掴みを避けつつ、口数（※）を増やせるのがメリット。

■世界のさまざまな資産に分散する
→投資信託やETF（上場投資信託）を活用する。

●ドルコスト平均法のメリット（図：SBI証券）



6万円分一括で買付した場合

A で6万円分買付 ＝ 75,000口 ▸ 10,000口あたりの買付単価 ＝ 8,000円
B で6万円分買付 ＝ 60,000口 ▸ 10,000口あたりの買付単価 ＝ 10,000円

1ヵ月1万円ずつ半年間積立買付した場合（ドル・コスト平均法）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
買付金額	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	60,000円
買付口数	12,500口	11,111口	10,000口	11,111口	11,111口	12,500口	68,333口

10,000口あたりの買付単価 ＝ 約8,780円

※口数：投資信託の取引単位。1万口当たりの価額で表示。

投資にはやはりまだ抵抗がある、という方には、保険商品も選択肢のひとつとなります。投資信託や株式と違い、1日で何千円も下がることはありません。ご自身のリスク許容度に応じて選択しましょう。

以上で見てきたように、資産運用では一時的な暴落・暴騰で一喜一憂するのではなく、非課税制度（NISA等）を活用し自動でつみたてる設定にして、長期・つみたて・分散を実践しましょう。

Groove 株式会社 グルーヴ　静岡市駿河区宮竹1丁目15-5 TEL 054-236-1488　掲載記事 2024年9月現在
ファイナンシャル・プランニング及びISO認証に関する企業コンサルティングで ISO9001:2015 認証取得